

別書誌  
合2冊

特53

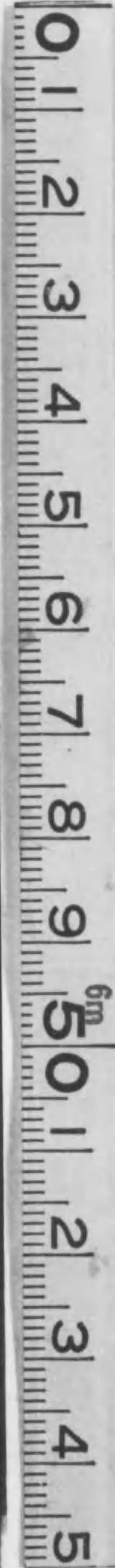
712

歴史地  
理地育 鉄道唱歌

中村 林松

禁複写

国立国会図書館



始



T-26

特53 49

712

歷史地理  
教育

# 鐵道唱歌

榮花園主人

作歌

東京

自省堂發行

特53-712



\*1200800240155\*

特53

163

陸軍一等軍樂長  
榮花園主人

古谷弘政作曲

作歌

歷史地理  
教育

# 鐵道唱歌

東京

自省堂發行



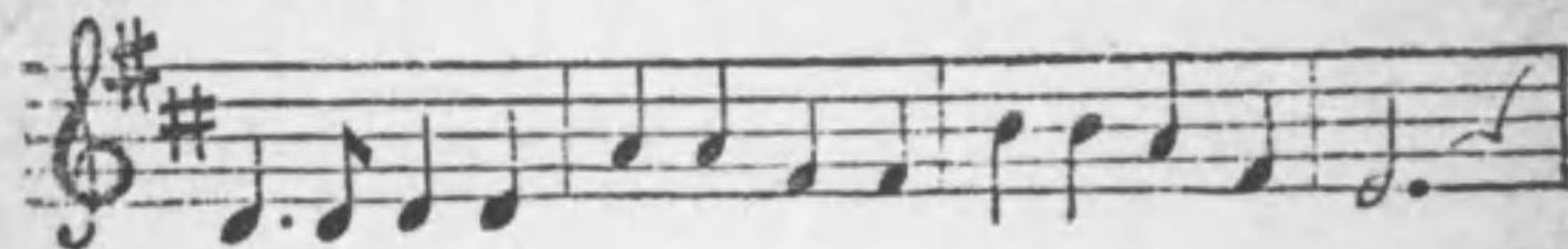
# 鐵道唱歌

ニ調 4/4



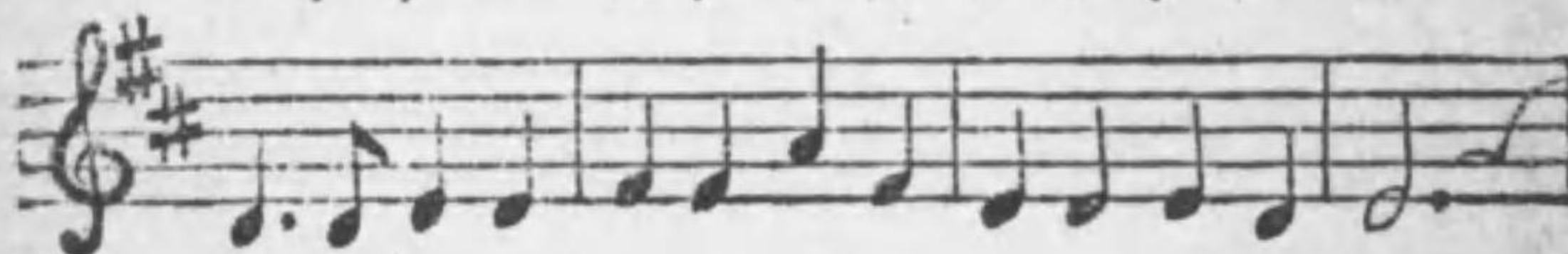
1. 1 2 2 | 6 6 5 6 | 2 2 2 1 | 2-0 |

(1) キ テ キ ノ コ エ ト - モ ロ ト モ ニ  
 (2) あ す か の や ま な - あ さ に み て  
 (3) ハ ス ダ ト ク キ ト - ク リ ハ シ ノ



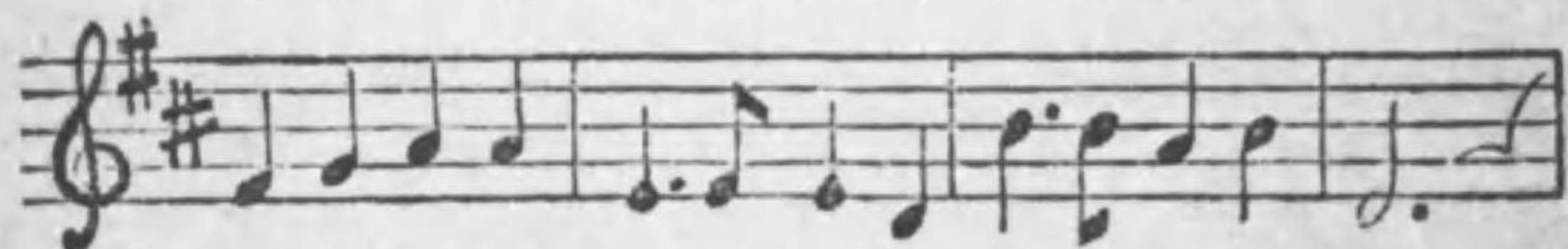
1. 1 2 2 | 5 5 3 3 | 6 6 5 3 | 2-0 |

ヤ ガ テ - ク ル マ ハ キ シ リ イ テ  
 あ か ば れ わ - ら び う ら わ な ぞ  
 マ チ ナ - ス ケ レ バ ナ ニ シ ア フ



1. 1 2 2 | 3 3 5 3 | 2 2 2 1 | 2-0 |

ウ ヘ ノ ノ ヤ - マ ニ ソ ヒ メ グ リ  
 い つ し か す - ぎ て お ほ み や や  
 ト チ - ノ カ ラ ニ カ ケ ロ タ ス

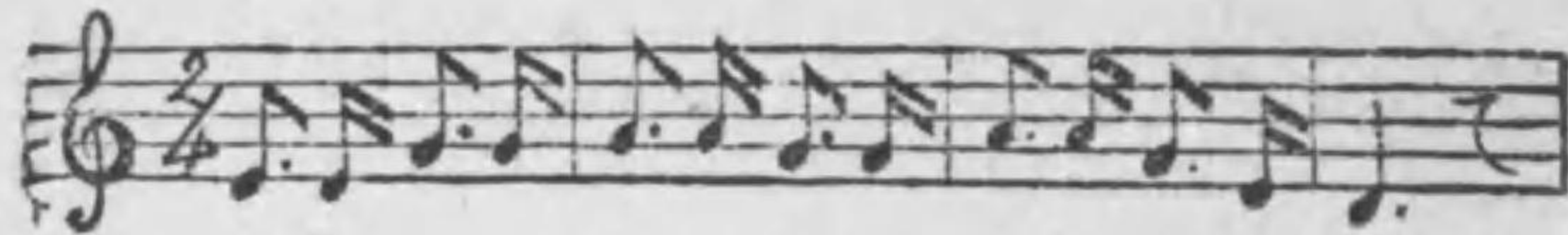


3 4 5 5 | 2 3 2 1 | 6 6 5 6 | 1-0 |

子 ギ シ ノ サ ト ナ - ハ ナ ル レ バ  
 ひ か は の か み の - ま し ま ぜ る  
 ク ロ ガ チ バ シ チ ヲ タ リ ツ ツ

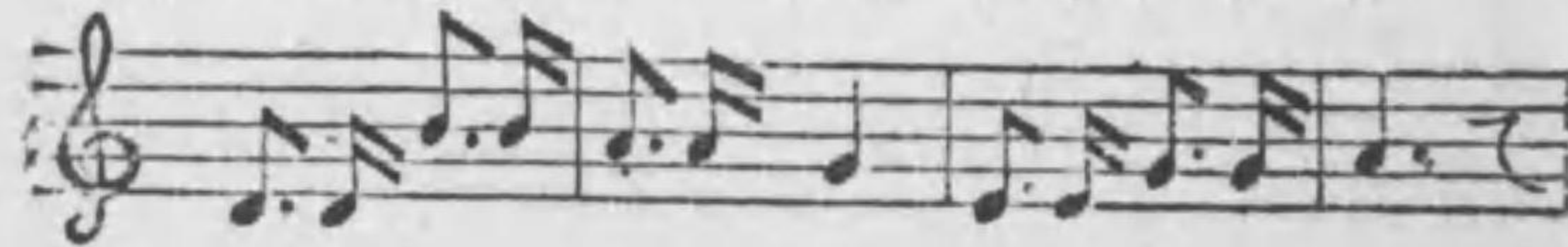
# 鐵道唱歌

ハ調 2/4



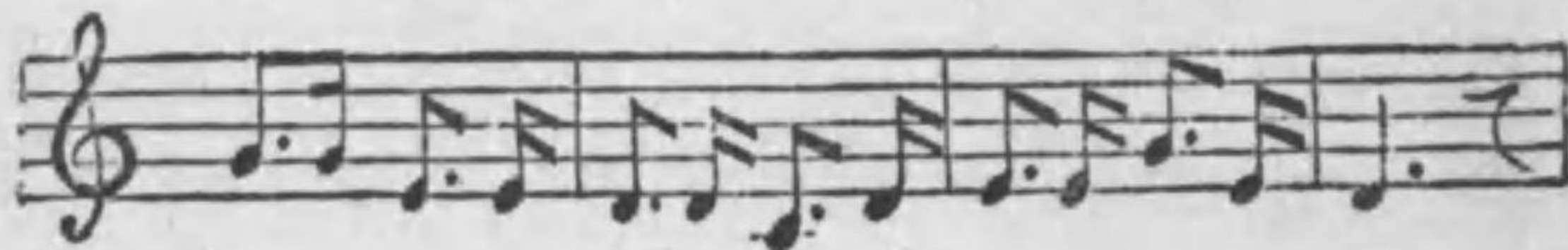
3̣. 3̣ 5̣. 5̣ | 6̣. 6̣ 5̣. 5̣ | 6̣. 6̣ 5̣. 3̣ | 2̣. 0

(1) キ テ キ ノ コ エ ト ー モ ロ ト モ ニ  
 (2) あ す か ー や ま を ば あ さ に み て  
 (3) ハ ス ダ ト ク ー キ ト ク リ ハ シ ノ



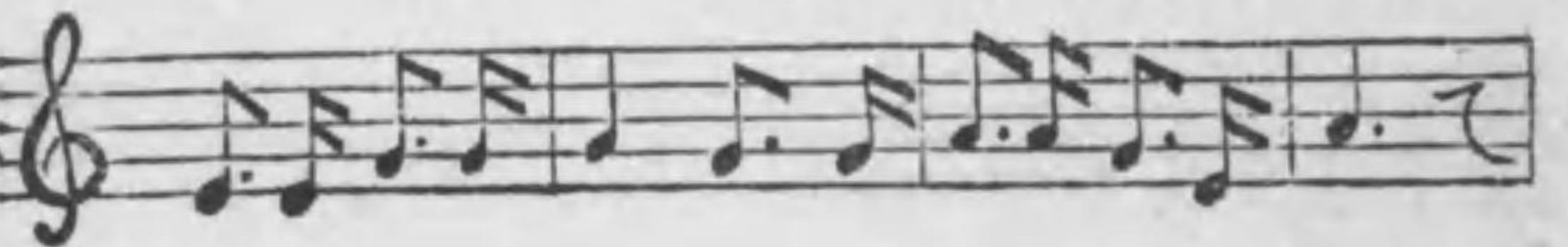
2̣. 2̣ 7̣. 7̣ | 6̣. 6̣ 5̣ | 3̣. 3̣ 5̣. 5̣ | 6̣. 0

ヤ ー ガ テ タ ル マ ハ キ シ リ イ テ  
 あ か ば れ わ ら び う ら わ な び  
 マ ー チ ナ ス ダ レ バ ナ ニ シ ア フ



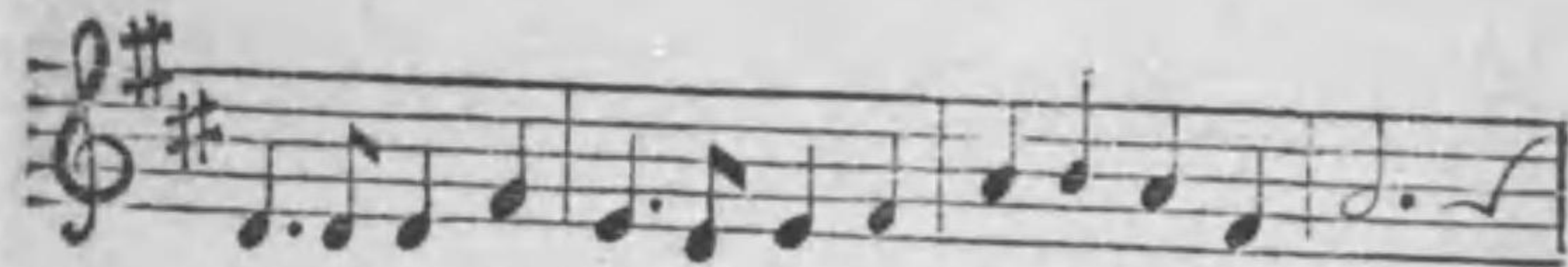
5̣. 5̣ 3̣. 3̣ | 2̣. 2̣ 1̣. 2̣ | 3̣. 3̣ 5̣. 3̣ | 2̣. 0

サ ヘ ノ ノ ヤ ー マ ニ ソ ヒ メ ケ リ  
 い つ し か す ー ぎ て お ほ み や や  
 ト ー 子 ノ カ ハ ラ ニ カ ケ ヲ タ ス



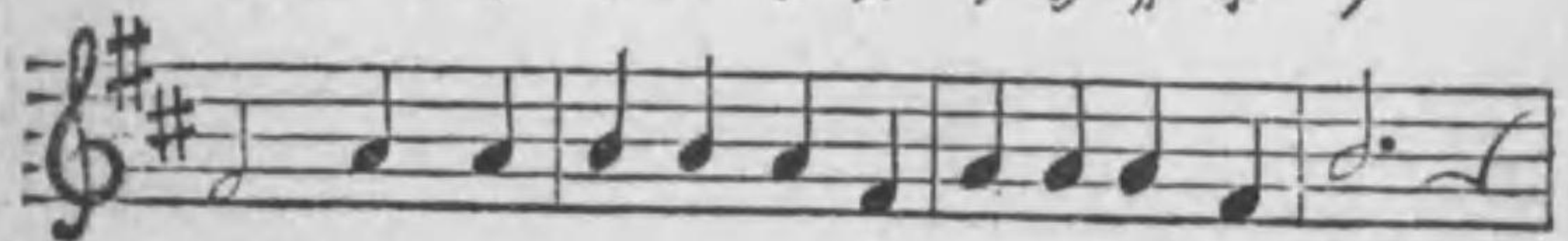
3̣. 3̣ 5̣. 5̣ | 6̣ 5̣. 5̣ | 6̣ 6̣ 5̣. 3̣ | 6̣. 0

子 ギ シ ノ サ ト ち り ハ ナ ル レ バ  
 こ し ち に さい た り ち へ ち ち ち ち ち ち ち ち  
 こ ろ が 子 ハ シ チ ヲ タ ヲ タ ヲ タ ヲ タ ヲ



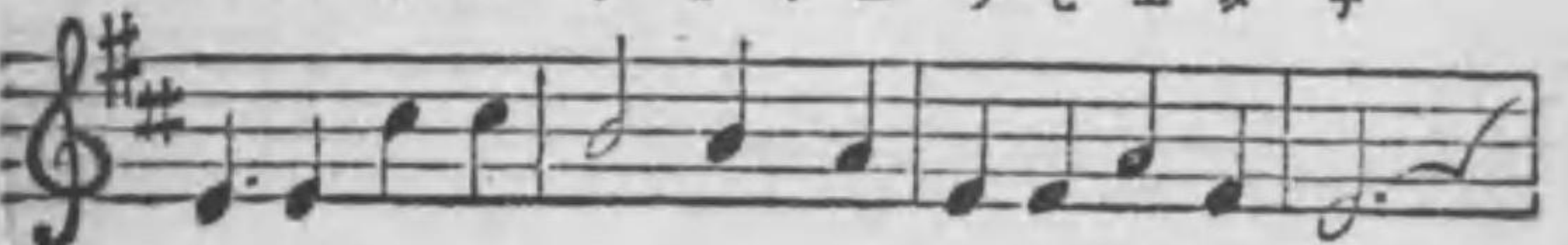
1̣. 1̣ 1̣ 3̣ | 2̣. 1̣ 2̣ 3̣ | 5̣ 6̣ 5̣ 3̣ | 5̣-0

タ バ タ ノ エ ー キ ニ ム カ ヘ ラ ル  
 み ち さ わ か ー ね て ム カ ヘ ラ ル  
 ヒ ダ リ ナ ミ ー レ バ フ シ ガ 子 ノ



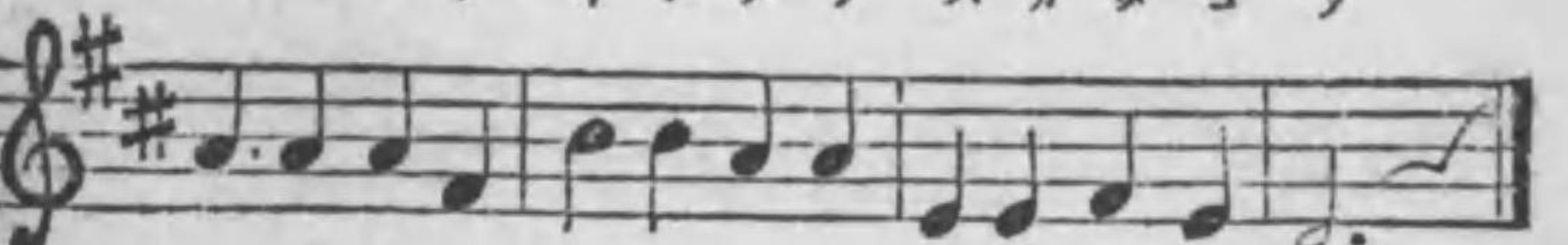
3̣-5̣ 5̣ | 6̣ 6̣ 5̣ 3̣ | 5̣ 5̣ 5̣ 3̣ | 6̣-0

ヨ コ ヨ リ ミ ー チ ハ フ タ ス ダ ニ  
 こ し ち に い ー た ら く ろ が れ の  
 ハ ル カ ニ ク モ マ ニ ソ ビ エ タ チ



2̣. 2̣ 7̣ 7̣ | 6̣-6̣ 5̣ | 3̣ 3̣ 5̣ 3̣ | 2̣-0

ワ カ レ テ ヒ ダ リ ニ ス ス ミ ユ キ  
 み か き の そ ー さ な め ぐ リ つ つ  
 ユ ー キ チ イ タ ダ ク ス ガ タ コ ソ



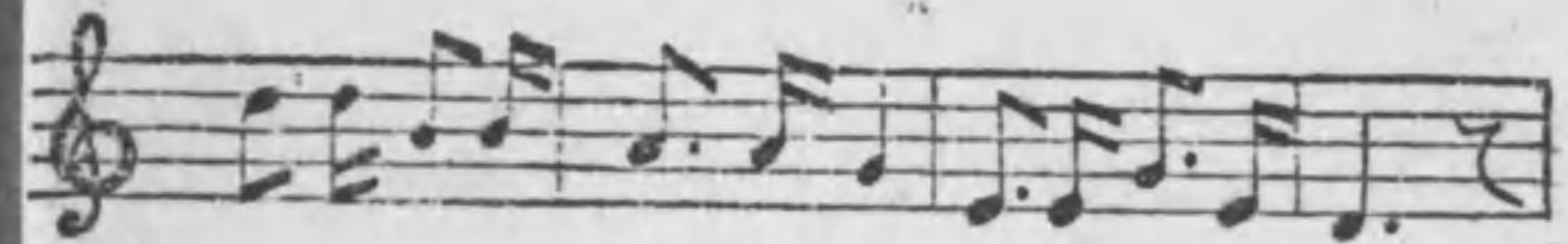
5̣. 5̣ 5̣ 3̣ | 6̣ 6̣ 5̣ 5̣ | 2̣ 2̣ 3̣ 2̣ | 1̣-0

ワ ワ シ ノ マ チ ニ ー ツ キ ニ ケ リ  
 き り く た は や め て は せ ん ぼ け リ  
 ゲ ニ ヲ ガ ク ニ ノ ー チ

東北鐵道

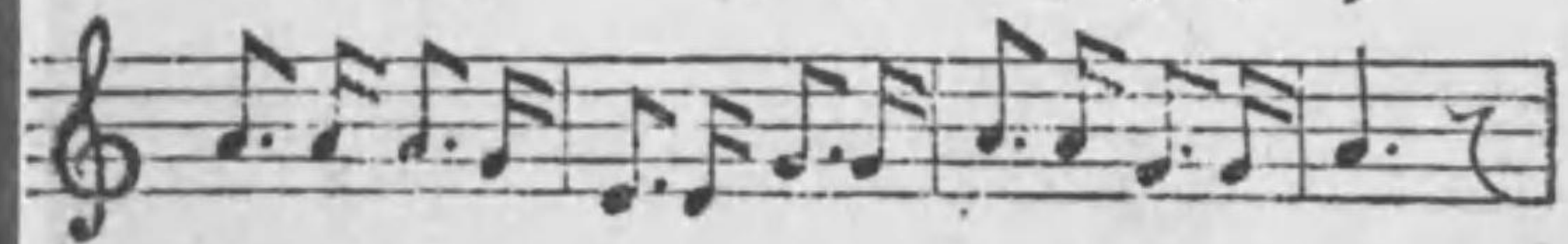
一 汽笛の聲と諸共に

分れて左に進み行き  
 王子の街に着きにけり  
 此より道は二筋に  
 田端の驛に迎へらる  
 根岸の里を離るれば  
 上野の山に沿ひ繞り  
 やがて車はきしり出で



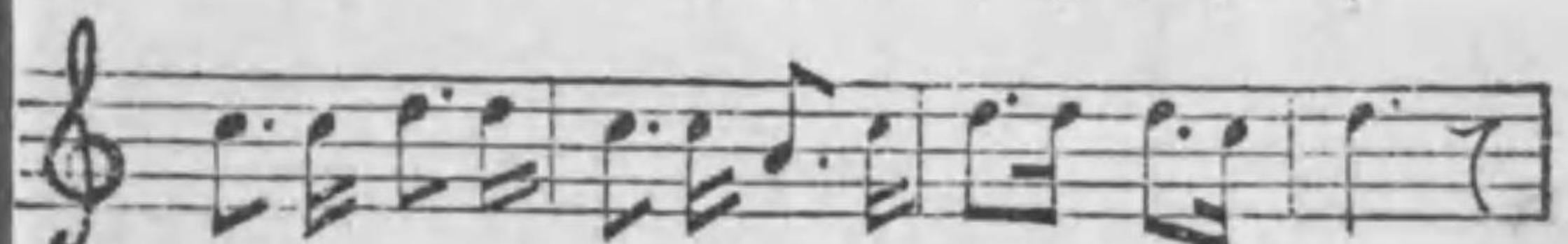
2̣. 2̣ 7. 7 | 6. 6 5 | 3. 3 5. 3 | 2. 0 |

タバタノエキニムカヘラル  
 みちさわかきれてこなたなる  
 ヒダリチミレバフシガチノ



6. 6 6. 5 | 3. 3 5. 5 | 6. 6 5. 5 | 6. 0 |

コヨヨリミチハフタスヤニ  
 ひかはのわかーみハマソビエタ  
 ハルカニクモマニソビエタチ



1̣. 1̣ 2̣. 2̣ | 1̣. 1̣ 6. 1̣ | 2̣. 2̣ 2̣. 1̣ | 2̣. 0 |

ワカレテヒダニススミユキ  
 みかきこのそさなーめぐリツツ  
 ユーキチイタダクスガタコソ



2̣. 2̣ 7. 7 | 6. 6 5 | 6. 6 3. 2 | 5. 0 |

ワウシノマチニツキニケリ  
 きよくをばやめてはセンにけり  
 デニワガクコノチンゴナレ

二 飛鳥山をば跡に見て

赤羽 蕨浦和など

いつしか過ぎて大宮や

越路に至る鐵の

道と分れて此方なる

氷川の神のましませる

御垣の外を遶りつゝ

汽力を速めて馳せにける

三 蓮田と久喜と栗橋の

驛を過ぐれば名にし負ふ

利根の河原に架渡す

鐵橋をわたりつゝ

左を見れば富士が嶺の

遙に雲間に聳ゆ立ち

雪を戴く姿こそ

實に我國の鎮護なれ

四 筑波の山を右に見て

古河の驛にぞ着きぬれば

幾百年の苔蒸せる

三位入道頼政の

首を埋めるおくつちを

訪ひ吊ひつそのかみの

忠勇義烈の真心に

袖を絞るもかなしけれ

五 間々田を過ぎて程もなく

迎へ待てるは小山なり

南に行けば水戸に着き

北に進めば高崎の

往來もしげき土地なれば

乗りつ降りつの客人は

我れ後れじと争ひて

潮の湧くがごとくなり



六 寶湧き出る小金井の

一里離れし薬師寺は

天都日嗣の御位に

登りつらんとたくみしを

和氣の朝臣の誠忠に

皇基も此に彌かたく

姦僧道鏡囚はれて

世に名も高き寺をかし

七 瞬く隙に宇都宮

分れて道は西北に

至るは日光鐵道を

いざとばかりに乗換へて

數々く過ぐる停車場

送られつゝも迎ふ山

見るも深奥雄大の

日光にこそ着きにけれ

八

韓紅からくれなるに塗ぬりなせる

欄干らんかん高く虹にじに似にて

光ひかりまばゆき擬ぎ寶珠ほうしゆの

青葉あおばの中うちに輝かがやきて

架渡かけわたしたる大谷川たいやがは

是名これなにし負おふ神橋しんけうを

歩あゆみ渡わたればおのづから

天てんにも登のぼる心こころ地ちせり

九 右みぎと左ひだりの山々やま々は

老杉らうさん古松こしょう蒼鬱そううつと

晝猶ひるなほ晦くらく生はひ茂しげり

遠とほく深山ふかやまに入いるかどぞ

疑うたがはれつゝ坂道さかみちを

登のぼり盡つくれれば一ひと條すぢの

大路おほみちは直なほく砥せきの如ごとく

社やしろの御前みまへに續つきけり

一〇見上ぐばかりの大鳥居

圓き柱の大きさは

三人抱へて猶足らず

潜り通りて表門

朱き漆を塗り飾り

極彩色を施して

左と右に唐獅子は

行儀正して衛り居る

一一國の領主の納めける

燈籠の數はいと多く

いづれ劣らぬ巧にて

金や石もて造りなし

並び列びて限りなし

尙外國人の贈られし

鑄物の品や彫刻や

數へ盡せば日も暮れぬ

二三 昔名だたる匠等が

巧を盡せる業くらべ

黄金白銀ちりばめて

日脚の移るも覺ゆずに

仰ぎ見せしむ建築は

日暮門となん呼びびて

是を日光第一の

陽明門とぞ聞ゆける

二三 東照宮の鎮座せる

社殿を仰ぎ眺むれば

桐の葉に栖む鳳凰や

獅子の遊べる牡丹花

虎は嘯き龍は舞ひ

飾り盡して遺すなし

其麗はしき限りなく

此世のものと思はれず

一四 奈良の都や平安や

奢極めし宮寺の

數々多き其中に

轟き渡るものあれど

山の勢雄大に

しかも華美なる殿造り

五畿八道八十州

企て及ぶものをなき

一五 宮居を左にたどりつゝ

上りつ下りつ行きぬれば

雨と風とに曝されて

木地もあらはの衡門

眠れる猫の其姿

誰が手に成りし巧ぞや

是を匠に名も高き

左甚五の作とかや

一六石のきざはし二百段

仰げば老樹の枝交り

隧道成せる其中を

上れば晝も猶くらく

翠滴る木下蔭

俄に景色の變り來て

神の威光の彌まさり

我を忘れて額きぬ

一七石の玉垣めぐらして

其中央に唐銅の

大寶塔は建てられし

元和偃武の英雄は

骨は朽ちても名は朽ちず

功は千古に傳はりて

其靈魂は此中に

永く眠りて留まりぬ

一八 此は紅葉に名も高く  
 秋の錦を織り成せば  
 裏見の瀧や霧降の  
 瀧に碎けて迸り  
 水が燃ゆるか紅の  
 蒸氣とばして山々は  
 五色の雲のたなびきて  
 腸あらふ思あり

一九 萬の雷轟々と

耳を劈き山震ふ  
 是なん華嚴の瀧なるぞ  
 直に下る七十丈  
 半は霧に蔽はれて  
 半は雲につままれて  
 群り飛べる岩燕  
 黒き星かと疑はる

二〇 中禪寺の湖は

黒髪山や其外の

山が遶りていや高く

水の光と山の色

碧を凝らし鏡なす

面に映る山の影

舟漕ぎ行けば頂に

上る思をなしにける

二一 此湖はむかしより

水冷かにいと清く

魚と虫とは棲まさりし

されども斯る理の

あるべき事にあらぬとて

魚の卵を放ちしに

年々ふねるめでたさは

開け行く世の餘光なり



二三 御輦を此にまげられて

その景色をみそなはし

近く侍ふ司等へ

大勅語をば下されて

名を幸の湖と賜はりて

後の世までも芳しき

天皇の恵こそ

實に尊くもかしこけれ

二三 日光よりはもとの道

再び來る宇都宮

古田長久保矢板など

停車場をば跡になし

西那須野にぞ着きにける

これより西北六七里

野路をたどれば鹽原の

温泉にこそは行かれける

二四 次つぎに來きたれる黒磯くろいそは

那須野なすのが原はらの直中ただなかに

や、賑にぎはしき街まちなり

彼の殺生石せつしょうせきの舊蹟ふるあとと

那須なすの七湯しちたうさぐらんは

此こゝより道みちも遠とほからじ

暇いとまもあらば一日いちにちの

隙ひまを費つひやし遊あそぶべし

二五 左ひだりに見みゆるは旭岳あさひだけ

右みぎに高たかきは八溝山やみそやま

川かわを渡わたりて谿たにを踰こゆ

山やまを送おくりて又また迎むかへ

黒田原くろだはらをも打過うちすぎて

豊原驛とよはらゐきをも跡あとに見みて

磐城いはいの國くにに入りぬれば

はや白河しろがはに着つきにけり

二六 明治のはじめ官軍は  
 路を分ちて進み行き  
 會津の城を攻めなんと  
 其勢の凄まじく  
 此まで押寄せ來りしが  
 やがて戦はじまりて  
 錦の御旗の朝風に  
 翻りたる蹟なりき

二七 二本松をもいつしかに  
 過ぎて福島ステーション  
 顯家卿の古跡と  
 文字摺石は此に在り  
 其名も清き白石や  
 大河原をも跡にして  
 奥羽一の大都會  
 仙臺にこそ着きにけれ

二八 瞬またく隙ひまに岩いは切ぎれや

鹽しほ竈かま行ゆきと乗換のりかへて

いざや日本にっぽん三景さんけいの

中なかにも一いちとうたはるゝ

松島まつしま指さして馳はせゆけば

老松らうしょう小松しょうしょういたゞきて

いづれの島しまも千代ちよ八千代やちよ

めでたかりける事ことなりき

二九 もと來きし路みちにもどり着つき

野田のたの玉川たまがは跡あとに見みて

多賀たがの城址しろあと眺ながめつゝ

一の關いちのかみなる衣川ころもがは

館たての古蹟ふるあといづこそと

問とへど答こたへも松風しょうふうの

夢路ゆめぢをたどり水澤みづさわや

陸奥むつの國くににぞ入いりにけり

三〇

黒澤尻を跡に見て  
花巻日詰ゆめのまに  
通り過して盛岡は  
むかし豪族安倍氏が  
柵を造りし厨川  
見馴の松も名に高く  
尻内驛に支線あり  
湊に行くは二十分

三一

山を遶りて野を迎へ  
野に送られて川を越へ  
眺望飽きつゝ来て見れば  
景色變れる海原は  
陸奥の入海入込みて  
波も静けき野邊地灣  
出船入船帆を揚げて  
走れる様の心地よさ

三三 上野を出でて一晝夜  
 四百六十餘哩の  
 長途もここに北海の  
 五港の一なる函館と  
 往來もしげき青森の  
 港に着きて眺むれば  
 百貨を山に積み成せる  
 状を見るこそ愉快なれ

終

明治三十三年七月十四日印 刷  
 明治三十三年七月十九日發 行  
 明治三十三年九月十三日再版印刷  
 全 年 全 月 廿 七 日 発 行  
 作曲者 古 谷 弘 政



著作 所有

著作者 菜花園主人

日本橋區蠣殻町一丁目四番地

發行者 中島萬吉

神田區猿樂町二丁目二番地

印刷者 上村龍之助

自省堂最近刊書目

日本一週航海唱歌

全貳冊 壹冊

正價金六錢  
郵稅金貳錢

日本義勇軍歌

全壹冊 四百十頁

正價金拾錢

記事論說作文五千題

全壹冊 三百四十頁

正價金拾七錢

普通國文作文大全書

全壹冊 四百二十頁

正價金廿五錢

和洋算法

全壹冊 四十頁

正價金五錢

終